

みんなで作る、学校を中心としたまちづくり

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一つに～

わたしたちのまちの、
あたらしい物語が
はじまるよ！

地域の宝物である「子どもたち」を、みんなで一緒に育てよう

目的は、学校と地域がしっかり手を結び、子どもたちの「体験・活動」を豊かにすること。



子どもたちの体験を経験に

脳の一次方程式



$$Y = aX$$

係数 = 現実の重み
価値観、興味関心、感情など

同じ体験をしても、
体験に対する価値観・興味関心・感情などが
プラスであれば、**好意的な反応・行動**
マイナスであれば、**否定的な反応・行動**
0(ゼロ)であれば、**無関心・無視**

バカの壁 養老孟司著 新潮新書 2003 から

行動を促すためには

適切な価値観や興味関心
などを育てることが重要



子どもの頃の体験が大切

人間
関係

- ・子どもが活躍できる場を創り出す
- ・友達や近所の大人に褒められるきっかけを創る
- ・子どもと将来の夢や人生について語る

多様な
体験

- ・学校・家庭・地域での体験機会を増やす

体験
の質

- ・愛情や絆を育む
- ・熱中できる環境を整える

体験の風を起こそうリーフレット
「社会を生き抜く力【令和5年度最新版】」
国立青少年教育振興機構 から

あなたの「できる can」と子どもたちの「体験 do」をつなぐ！ あさひかわ DOC&I.net 地域学校協働活動



お互いに頑張っているけれど、今は少し「すれ違い」が起きています

学校からの「報告を聞くだけ」に
なっていて、話し合いができていない…
(学校評議員のまま)

学校行事を「手伝うことだけ」が
協働活動だと勘違いしていることも…

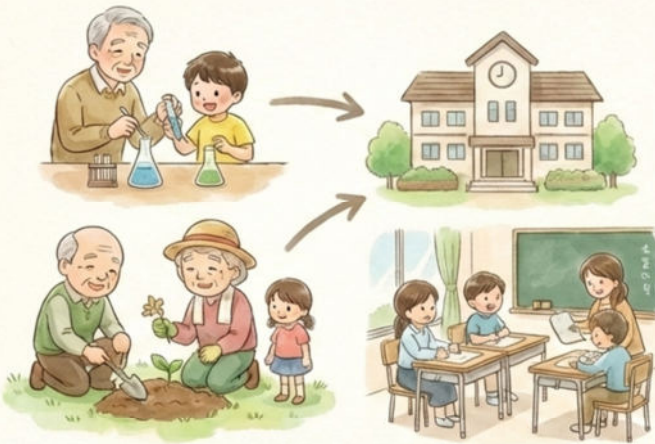


もっと一緒に
活動したいけど、
時間も仕組みも
足りないんです…

学校が地域に出向きたくても、
様々な「壁」があって難しいのが現状です。

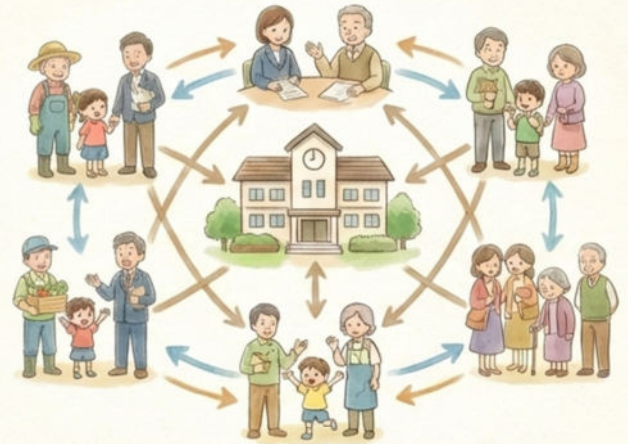
「学校を手伝う」から「学校を中心にまちをつくる」への大転換！

コミュニティ・スクール



地域の力を活用して学校の活動を充実

スクールコミュニティ



こどもまんなかまちづくり。学校のカリキュラムに地域の課題解決を組み込み、大人も子どもも一緒に成長する関係。

この新しいカタチで、「郷土愛」と「シチズンシップ (市民としての自覚)」を育みます！

こどもまんなかまちづくり

子どもたちの育ちや学校を核とした地域づくりのために



そこで登場！学校と地域をつなぐ「橋渡し役」



旭川市における地域学校協働活動の推進体制について

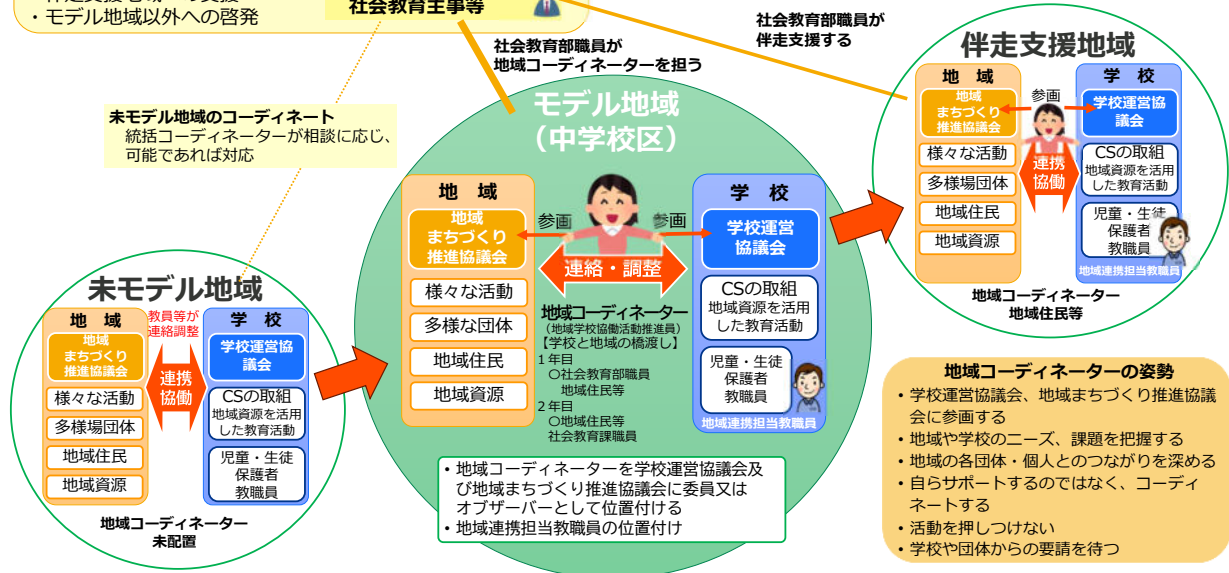
旭川市地域学校協働活動統括本部

【事務局：教育委員会社会教育課】

- ・地域学校協働活動の統括
- ・関係部局との調整
- ・事業関係者の情報交換や資質向上を図る研修の実施
- ・各モデル地域間の連絡・調整
- ・伴走支援地域への支援
- ・モデル地域以外への啓発

統括コーディネーター
社会教育主事等

- ・地域コーディネーターの確保状況に応じ、モデル地域（中学校区）を設定。モデル地域の期間は2年間とし、地域住民等が教育委員会職員と一緒にコーディネートしていくことで、地域住民等がコーディネートできる体制づくりを行う
- ・順次、新たなモデル地域を設定（年3中学校区程度）し、将来的には全市的な展開を目指す
- ・モデル地域終了後は、伴走支援地域となり、社会教育部職員が伴走支援をしながら、地域住民等がコーディネートしていく。
- ・地域コーディネーターには、活動に応じた報償費を支給予定（上限有り）



旭川市における地域学校協働活動コーディネーターについて

旭川市地域学校協働活動統括本部

【事務局：教育委員会社会教育課】

- ・地域学校協働活動の統括
- ・関係部局との調整
- ・事業関係者の情報交換や資質向上を図る研修の実施
- ・各モデル地域間の連絡・調整
- ・モデル地域以外への啓発

統括コーディネーター
社会教育主事
(社会教育課主幹)



地域コーディネーター

つながり 活動者

子どもたちの体験 DO

つなぐ DO CAN 土 管

地域や学校のできること CAN

R 8 年度モデル地域 (予定)

社会教育課職員が地域の方とともに地域コーディネーターを担う

モデル地域	中学校区	対象校	年度	地域コーディネーター (複数所属有) [14名]
モデル地域	東 陽	共栄小 東栄小 東陽中	R7~8	社会教育課 2名 地域の方 2名 学校運営協議会委員、 地域まちづくり推進協議会委員
	神居東	神居東小 雨紛小 神居東中	R7~8	社会教育課 2名 地域の方 4名 学校運営協議会委員 地域まちづくり推進協議会委員
	広 陵	陵雲小 未広北小 広陵中	R7~9	社会教育課 2名 地域の方 3名 学校運営協議会委員 民生委員児童委員
	六 合	春光小 末広小 六合中	R8~9	社会教育課 2名 地域の方 3名 学校運営協議会委員、 民生委員児童委員、保護司
	永山南	永山南小 永山西小 永山南中	R7~8	社会教育課 2名 地域の方 1名 地域まちづくり推進協議会委員
	愛 宕	愛宕小 愛宕東小 愛宕中	R7~8	社会教育課 2名 地域の方 1名 PTA役員

R 8 年度伴走支援地域

地域の方が地域コーディネーター
社会教育課職員が伴走支援する

伴走支援地域	中学校区	対象校	モデル地域	地域コーディネーター (複数所属有) [14名]
伴走支援地域	旭 川	旭川小 旭川中	R3~6	地域の方 3名 学校運営協議会委員、 地域まちづくり推進協議会委員、 民生児童委員
	神 楽	神楽小 神楽岡小 神楽中	R3~6	地域の方 1名、公民館職員 地域まちづくり推進協議会委員
	春光台	高台小 春光台中	R3~6	地域の方 2名 学校運営協議会委員、 地域まちづくり推進協議会委員
	光 陽	東町小 豊岡小 光陽中	R6~7	地域の方 3名 学校運営協議会委員、 地域まちづくり推進協議会委員、 社会福祉協議会委員
	永 山	永山小 永山東小 永山中	R6~7	地域の方 2名 学校運営協議会委員、 PTA役員
	西神楽	西神楽小 西神楽中	R6~7	地域の方 3名 学校運営協議会委員 地域まちづくり推進協議会委員、 公民館 (指定管理) 館長

あなたの「できる can」と子どもたちの「体験 do」をつなぐ！ あさひかわ DOCAN.net 地域学校協働活動



みんなで作る！新しい活動が生まれる3つのステップ

1



作戦会議 (協議)

学校運営協議会で、学校と地域と一緒に「どんな活動をするか」を話し合います。

2



橋渡し (調整)

話し合いをもとに、地域コーディネーターが色々な人に連絡を取り、準備を進めます。

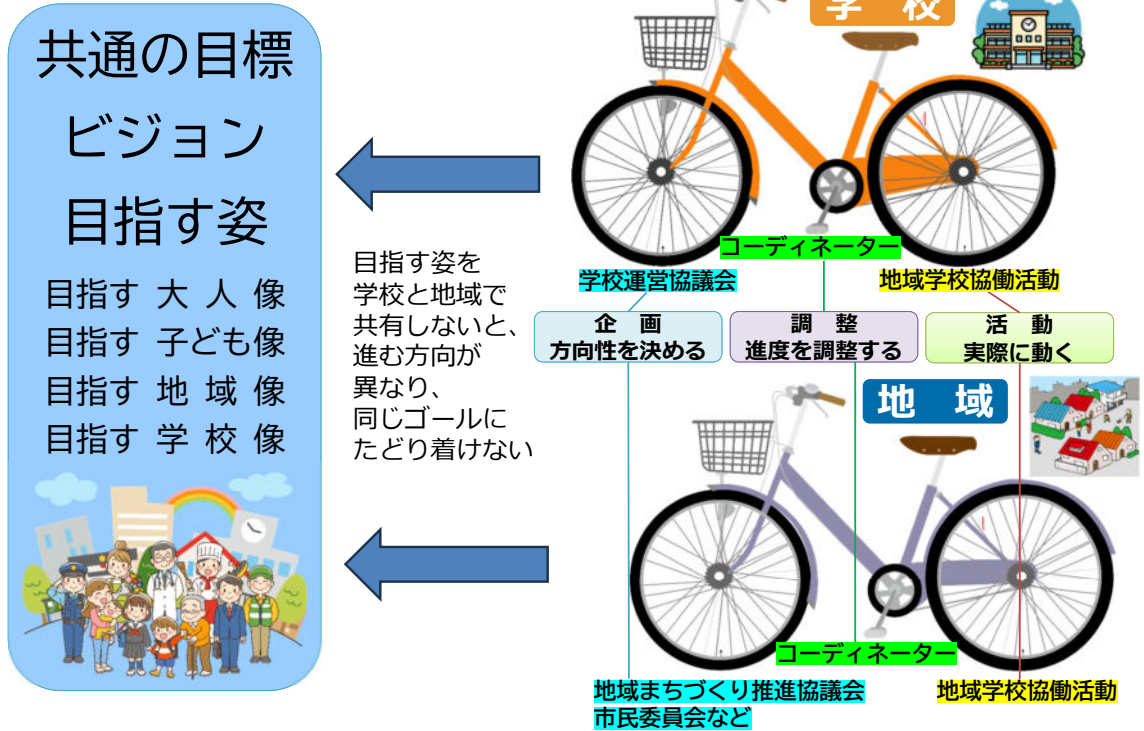
3



みんなで実行! (活動)

ついに実現!子どもたちの豊かな体験・活動がスタートします。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進



あなたの「できるcan」と子どもたちの「体験do」をつなぐ！ あさひかわ DOCAN.net 地域学校協働活動

見えないところから、教育委員会も「両手」でしっかり支えます



学校教育部

なぜ・何をするの？【目標・企画】

- ・委員の任命や謝金のお支払い
- ・協議会への指導・助言
- ・委員向けの研修の実施

社会教育部

どうやって実現するの？【調整】

- ・地域コーディネーターへの指導・助言
- ・コーディネーター向けの研修の実施

持続可能な社会の創り手（地域の担い手）の育成



子どもがまんなか。みんなが主役のまちづくりへ!



地域の宝「子どもたち」をまんなかにしたまちづくりを!

～コミュニティ・スクールから「スクールコミュニティ」へ～



私たちが目指すもの(3つの柱)



子どもたちの
体験活動の充実



地域の多様な人たちと関わることで、教科書だけでは学べない生きた知恵やワクワクする体験を子どもたちに届けます



「地域とともにある学校」と
「学校を核とした地域」の両立



地域の力を活用した学校づくりと
学校(子ども)を中心とした地域づくりを
一体的に進めます



郷土愛と
シチズンシップの育成



地域が好きという気持ち【郷土愛】や、
社会の一員としての意識【シチズンシップ】
を育みます。

これからの活動のかたち

これまでの活動:
「学校のお手伝い」



「共創(共に創る)」へ進化していきます。



学校での活動の充実



地域の課題を授業に



大人の成長にも

あなたの想いをつなぐ「橋渡し役」

地域



地域学校協働活動推進員
(地域コーディネーター)

学校



「学校支援は、まちづくりの第一歩です」

特別なスキルがなくても大丈夫。
あなたの「見守る目」や「ちょっとしたできること」が大きな力になります

お問い合わせは

旭川市地域学校協働活動統括本部 (旭川市教育委員会社会教育部社会教育課)

担当: 小島 ☎ 0166-25-7190

✉ shakaikyoiku@city.asahikawa.lg.jp

こどもが主役のまちづくりへ：旭川市地域学校協働活動

旭川市における「地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）」について

地域学校協働活動推進員の役割と体制

学校と地域の「つなぎ役」
学校と地域が対等なパートナーとして連携・協働できるよう、それぞれのニーズと資源を結びつけます。



中学校区を拠点とした配置
原則として、各学校に1名の推進員を配置し、教育委員会が伴走支援を行います

活動の4本の柱とルール

「橋渡し」を中心とした4つの活動



連絡調整 対話を重ねる

情報収集・育成

活動支援

打合せ・会議への参加



推進員は「プレイヤー」ではない

自身が直接活動を実施するのではなく、活動を支え、緊くコーディネートが中心的な役割です。

- 報酬単価** 1時間あたり 1,000円(電話・オンライン対応を含む)
- 活動上限** 1校当たり 年間30時間以内 (3か月ごとに集計 30分以上1時間未満は切上げ)
- 支給対象外** 他団体から別途謝金がある場合や、自ら直接活動を行う場合